

事業実績報告書

様式 2
(2022年度)

※この報告書は、なごや環境大学のウェブサイト上に記録として掲載されます。

講座番号	B-18	講座名	干潟の学校 ～藤前干潟を体感しよう～
記載日	2022/8/25	団体名・企業名	NPO法人藤前干潟を守る会

〈講座全体の概要〉(300字程度)

実際に干潟に入って生きものに触れ合うことにより、今までただの泥のとしか見えなかった干潟に、驚くほど多種多様な生きものが生息していることを知ってもらう。そして、上流からの栄養が小さな命を育み、まわりまわって大きくなった魚などを私たち人間が食べるという「命のつながり」についても伝え、干潟はもちろんのこと、上流を含めた流域全体の環境を守る重要性に気づいてもらう。

さらに、藤前干潟が国際的にも重要な湿地であることも伝え、渡り鳥たちの命をささえていることを伝える。



4月3日(日) 今にも降りだしそうな中、引き網を使って稚魚を採取。

8月13日(土) 採取した生きものを、図鑑などを使って調べました。

〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)

コロナ禍での講座実施も3年目。第6波が収まったかと思っていたら、あっという間に第7波が…。今期も細心の注意を払っての開催となった。
第3回プログラム日は終日雨予報で、迷いに迷ったが、この感染拡大期に雨天室内プログラムは望ましくないと判断。10年以上共育講座を実施してきたが、はじめて「雨天中止」とした。着席はもとより、観察も原則「家族単位」で動いていただき極力感染予防に努めた。神経をすり減らしてたものの、皆さんに楽しんでもらえ、無事に終わることができてホッとしている。

〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3～5点、計350字程度)

- ・この季節ならではの干潟の生き物たちに出会えた事。又、色々な手法で生きものを取る等工夫が子ども達もたのしめた。
- ・たくさん学ぶことが出来ました。家族だけでは体験できないので、大変良い時間を過ごせました。
- ・ It was the first time I went on the Fujimae Tidal Flat. It was very interesting.
- ・ 藤前干潟に初めて来ました。たくさんの生き物がある事を自分の目で見た事で干潟のおもしろさにふれました。藤前干潟が好きになりました。